

CarNeru
Style
私のクルマ自慢

屋根に上がればそのまま寝られる

ルーフテントは写真撮影の ベース基地にベストマッチ!

車中泊は寝る前の車内整理がけっこう面倒……。そこで撮影旅行にルーフテントを組み合わせた千葉さん。テント内は広くて見晴らしがよく、設営も簡単と大満足!

プロフィール
千葉勝美さん
美穂さん



- 東京都在住
- 車中泊歴：約5年
- 車中泊をする理由：条件のいい撮影ポイントの近くで、時間を気にせず休んだり仮眠をとることができるため。千葉さんご夫婦は車中泊は目的ではなく、写真撮影の手段と割り切っているという。
- 主に車中泊をする場所：撮影スポット近くの駐車場、自然のなか、キャンプ場など。

SUZUKI EVERY WAGON + COLUMBUS

スズキ エブリイワゴン+コロンバス

●購入動機：ワゴンのオルティアから乗り換える。ターボ車なので撮影機材を満載し、さらにルーフテントを積んでいても軽快に走れること。内外装の質感のよさも購入理由のひとつ。



千葉さんは奥さんともども写真撮影がご趣味。ご主人の勝美さんは写真を撮りはじめて30年のキャリアをもつ。最近では風景や星景(夜空)の被写体を求めて旅をすることが多く、休みが取れると1週間ほど同じ撮影場所にとどまることもある。昨年は雲海が撮りたくて岩手・遠野にも出向いた。

そんな千葉さんにとって、車中泊は趣味を広げるための欠かせない手段。前の愛車であるオルティアのときも、車中泊をしながら撮影旅行をしていた。が、車内の撮影機材を片付けられないとベッド空間を稼ぐことができなかったため、ルーフテントを組み合わせる今のスタイルに。エブリイに買い換えた現在も、このスタイルを受け継ぎ撮影旅行を楽しんでいる。

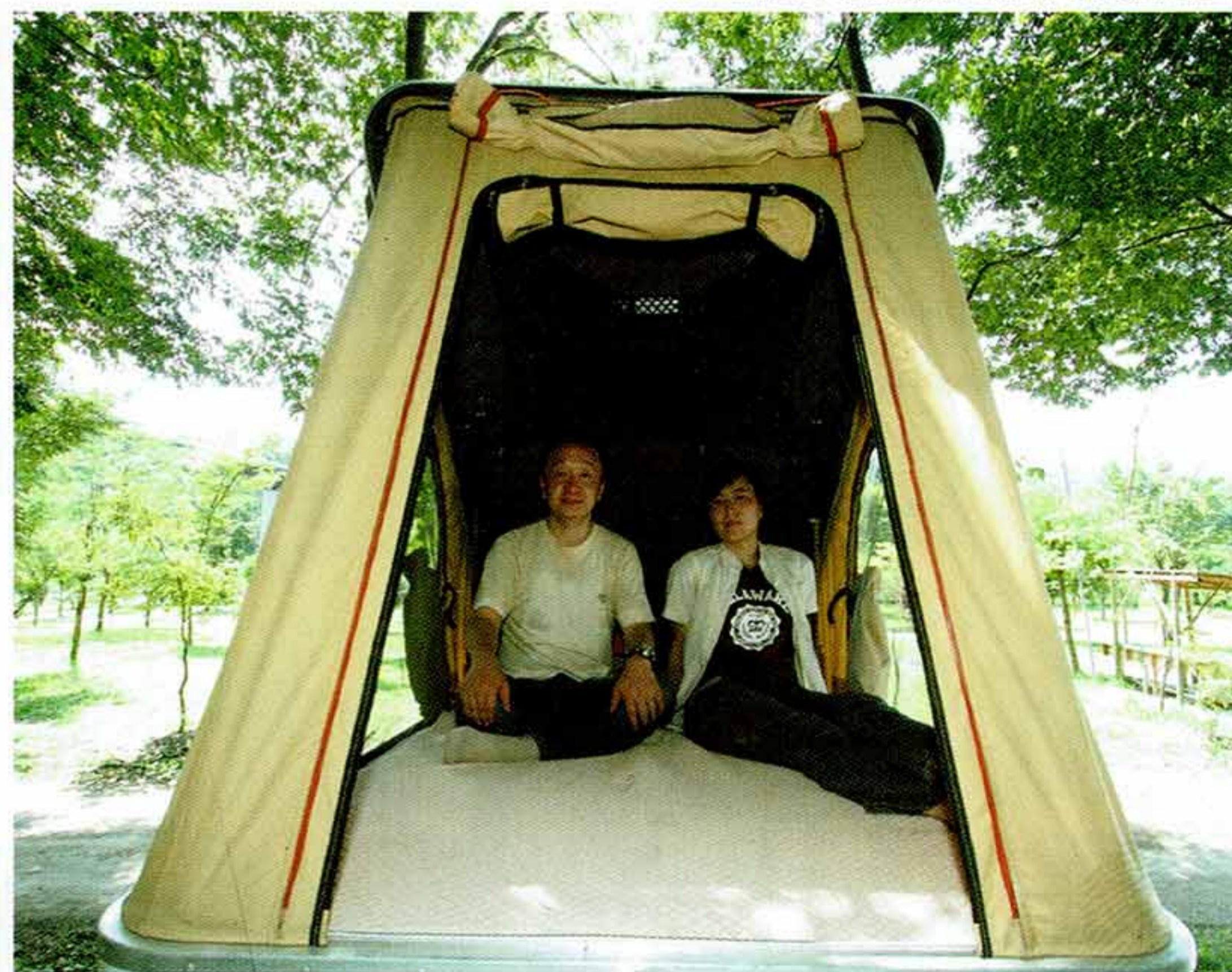
●千葉さんスタイル
ベストショットを狙い、滞在する時間も。広々ルーフテントは手放せません

ROOF TOP TENT ルーフテント 展開のスムーズさと余裕の室内高で シェル型のコロンバスを選びました

ルーフテントはジファージャパンが輸入、販売するシェル型の「コロンバス」。実際に使ってみると2人でも広々して使いやすいという



●展開はワンタッチ
テントは内蔵されたダンパーにより、ハードカバーのロックを解除すればワンタッチ感覚で展開。この手軽さが千葉さんのお気に入りだ



●通気性のいい開口部
テントはメッシュ付きの大きな窓があるので涼しい風が通り抜ける。また思った以上に見晴らしがよく、テントにしていると気持ちがいいとのこと



●4本の脚で確実装着
テントは4本のキャリア(フット)を介ししっかり装着される。本体重量は約46kgあり、高速では風の抵抗も受けるため、確実な装着は必須だ



●屋根にベッドルーム
目的地に着いたらさっとテントを展開して、すぐに寝られるのがいいと千葉さん。展開も撤収もスムーズなので、撮影のチャンスも逃がさない。千葉さんのテントは2人用のカップルサイズだ

シンプルで使いやすい 屋外テーブル!



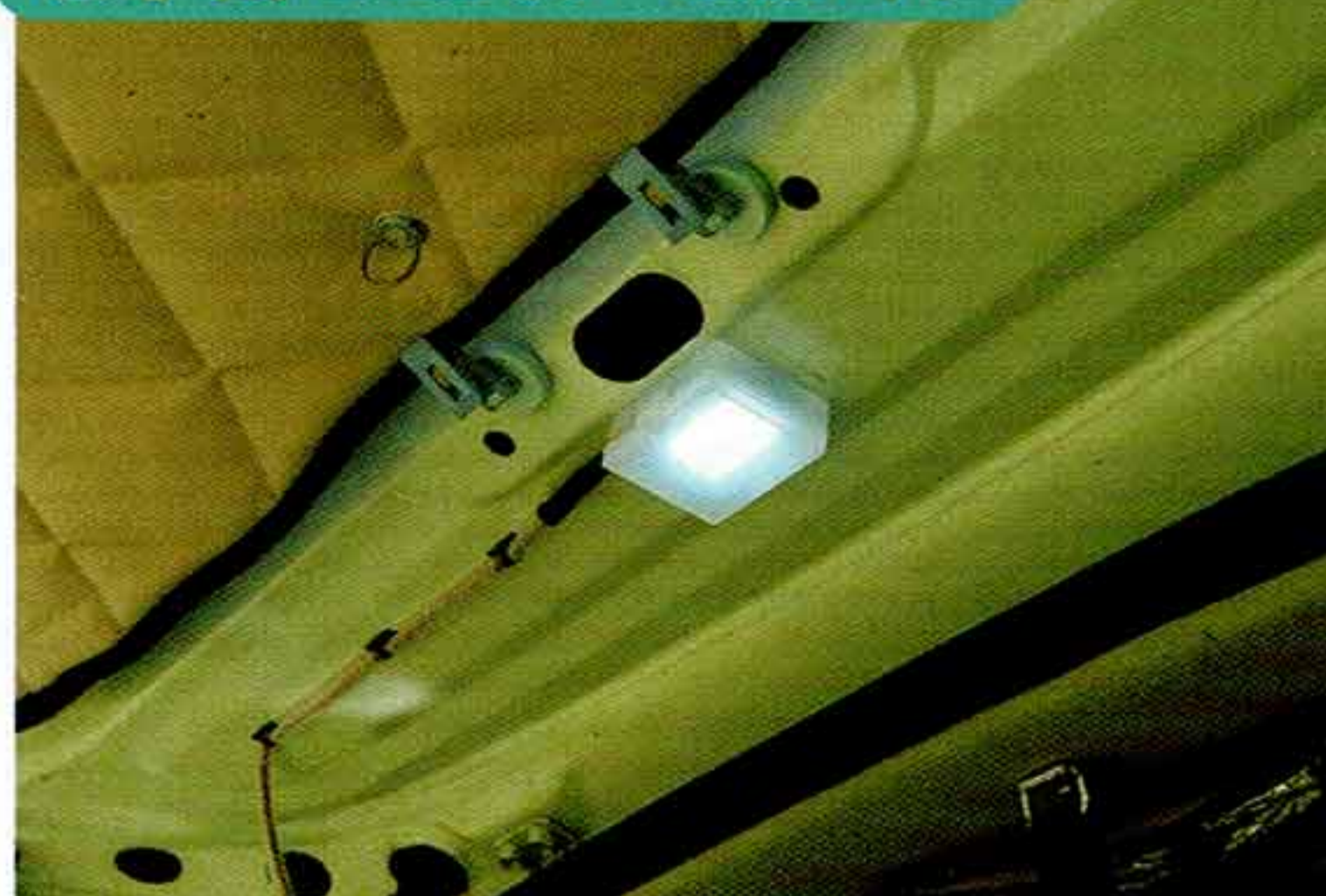
テールゲートの開口部に設けた引き出し式のテーブルはティータイムなどに便利。ここで湯を沸かしたりすることもできる(写真上)。テーブルは集成材を使ってDIYしたもので、サイズは幅54×長50cm(写真右)



テーブルはラゲッジを上下2段式に使える収納ボックス裏に装着(写真上)。テーブル天板は市販のスライド金具を用いることでスムーズに出し入れできる(写真下)



お手製 LED ルームライト



LED照明の電気はポータブル電源から引いたシガーソケットから。このLED照明は明るさが適度で周囲に迷惑をかけないのいいという

テールゲート開口部に装着するLED照明は千葉さんのお手製。クルマの室内灯用LED球をビルケースに組み込んだもの(写真上、右)。ケースが半透明なので光りがやさしい。照度的にもこれでほとんどの作業ができるという



千葉さんのワンショット! 岩手県遠野市にて

カメラ：Canon EOS 50D
レンズ：ZENITAR-M2.8/16 (ロシア製 16mm 対角魚眼レンズ)
その他：Canon タイマーリモートコントローラー TC-80N3 など

星が降る遠野の夜景は、ひとつの撮影ポイントで96枚撮影したものを画像処理ソフトで1枚に合成したもの。写真右下の光の帯は釜石線を走る列車のライト。幻想的で、昔話で知られる遠野のイメージとどこかオーバーラップする

